

入学式から数日後の或る新聞に、井上陽水（シンガー・ソングライター）の「小学生のときは素直ではなく、校長先生の話を無抵抗で受け入れることはできなかった。だが、年齢を経て、素直さを迎えられるという内的な変化があり、最近では校長先生の話も大事なのだと思えるようになった。」という主旨の談話が載っていました。このコメントは「校長講話」や「学校長式辞」の本質的な部分を言い当てているような気がして、入学式のときに感じていたものは、たぶん内的変化後の井上陽水のような心境だった



立科中学校長 芳原慶子 先生

のだろう、と勝手に判断致しました。素直に、「学校長式辞」は校長先生からの大事なメッセージである、と思えたからです。

そこで、児童・生徒が、慢性的な「慣れ」を戒め、目標と今の自分の姿とのずれを軌道修正するための一助として、さらに、学校教育が目ざしている方向を広く地域の方にも知っていただきたいと願って、平成24年度入学式における「学校長式辞」の概要をご紹介します。

立科小学校の高野眞一校長先生は、「三つのお願い」として、次のようなお話をされました。

「明るい挨拶ができる子」になってください。朝、お家の人や地域の人、友だち、先生に会ったら、笑顔で「おはようございます」と、明るい挨拶をしましょう。挨拶には、ほかに「さようなら」「ごめんなさい」「ありがとう」などの挨拶の言葉があります。心をつなぐ「挨拶名人」の一年生になりましょう。

「お話をよく聞く子」になってください。学校は、分からないことを分かるようにしたり、できないことをできるようにしたりするところです。ですから、大事なことがたくさん話されます。先生や友だちの話をよく聞いて、いっぱい学んでください。そして、賢い一年生になり

ましょう。

「友だちと仲良くできる子」になってください。学校は、友だちや先生と励まし合ったり、学び合ったりして、共によりよく伸びていくところです。友だちを大事にして、楽しい思い出をたくさんつくる一年生になりましょう。

立科中学校の芳原慶子校長先生も三つの指針を示されました。

「自分を育てる主人公は自分である。」という自覚を持つてください。世界でたった一人の自分をつくっていく責任者は自分ですので、周囲に流されそうな自分の弱い心に言い聞かせる「もう一人の自分」を、自分の心の内に育てていきましょう。

志を常に高く持ちましょう。「毎日を

ありのままに受け止め、慎ましく、地味に、志、常に高かれ。ああ、遠くの空は晴れている。」という言葉が好きです。遠くの空は晴れている。だから、その空に向かつて、高志を抱き、自分を高めていきましょう。

そして、立科中学校の生徒230名の一員という自覚を持って、多くの先輩の方々が大事に守り、育ててこられた立科中学校の校風と伝統、心を受け継いでいきましよう。

立科小・中学校に通う児童・生徒誰もが、初心を忘れず、より充実した中学校生活を送ってほしいと願っております。そのために、折々、目標を定めた原点に立ち戻って、軌道修正する習慣を身に付けたいものです。



立科町教育相談員
岩上起美男

相談時間等 月・水・金曜日

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131(呼)・有線2190(呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076(呼)・有線2251(呼)
- 立科町児童館/
午前11時40分～午後1時30分
電話 56-0303(直通)
有線 8889(直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の教頭先生へご連絡をお願いします。